

通し番号	4327
------	------

分類番号	19-71-21-04
------	-------------

(成果情報名) 採卵鶏の換羽処理方法の違いによる収益性に関する比較
[要約] 採卵鶏の換羽処理方法の違いによる収益性の比較を行うため、ふすま区、換羽飼料区、大すう区、絶食区で84～86週齢までの3週間換羽処理を実施した。換羽処理開始後16週目(100週齢)までは大すう区の累積粗収益が最も高かったが、以降は102週齢(試験終了)まで換羽飼料区、絶食区の累積粗収益が高かった。
(実施機関・部名) 神奈川県畜産技術センター 企画経営部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

畜産経営を左右する種々の要因を解析し、国際競争力のある経営体にするためには、従来技術の経営的評価や新技術の経営的効果、低コスト化、収益最大化を検討することは、畜産経営の継続性において重要である。

そこで、本試験では4種類の換羽処理法による生産調整技術を取り入れた収益性について比較検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 飼料摂取量は、対照区>大すう区>ふすま区>換羽飼料区>絶食区の順に多く摂取し、対照区と試験各区とは有意な差が認められた(表1)。
- 2 飼料要求率は、対照区 3.12 に対し試験各区で 2.10～2.46 と有意に優れていた(表1)
- 3 換羽処理後の卵殻強度は、対照区、大すう区に対してふすま区、換羽飼料区、絶食区が有意に優れていた(表2)。
- 4 累積粗収益では、換羽処理開始後 16 週目(100 週齢)までは大すう区が優れていたが、以降は換羽処理区、絶食区が試験終了の 102 週齢時まで優れていた。

[成果の活用面・留意点]

- 1 大すう区を除く換羽処理区では、処理開始後 6 週間は累積粗収益はマイナスになる。
- 2 大すう区は換羽処理開始後 16 週目(100 週齢)までは最も粗収益が高いので、短期間の生産調整や廃鶏時期の調整で使用できる。
- 3 16 週間以上の飼養期間延長を実施する場合は、換羽飼料区、絶食区が優れていた。
- 4 試験各区の累積粗収益のピークは 97 週齢(12 月末)で、年始の卵価急落によりその後 5 週間飼養しても、累積粗収益は 97 週齢時より低く、飼料価格が高騰している時期に、卵価が急落すると収益性が短期間に低下するので、収益性を高めるためには廃鶏のタイミングも重要な要因になる。

[具体的データ]

表1 生産性の成績(82~102週齢)

	対照区	ふすま区	換羽飼料区	大すう区	絶食区
飼料摂取量(g)	106.2 ^a	91.7 ^b	88.8 ^b	101.7 ^c	84.1 ^d
産卵率(%)	52.1	58.1	60.3	61.2	60.6
平均卵重(g)	65.9	67.1	68.0	67.6	66.9
日産卵量(g)	34.2	39.0	41.0	41.4	40.5
飼料要求率	3.12 ^a	2.36 ^b	2.17 ^b	2.46 ^b	2.10 ^b
生存率(%)	91.7	100.0	93.3	93.3	93.3
軟・破卵率(%)	3.0	1.6	1.4	3.9	1.6

※異符号間に有意差(p<0.05)

表2 卵質検査結果

	対照区	ふすま区	換羽飼料区	大すう区	絶食区
ハウユニット	81.0	82.2	83.8	79.2	82.5
卵殻厚(mm)	0.340	0.343	0.355	0.343	0.349
卵殻重(g)	5.7	6.0	6.2	5.9	6.1
卵黄重(g)	18.1	18.2	18.5	18.3	18.6
卵殻強度 kg/cm ²	2.90 ^a	3.76 ^b	3.76 ^b	2.89 ^a	3.65 ^b

※異符号間に有意差(p<0.05) ※※(88・92・98週齢の平均値)

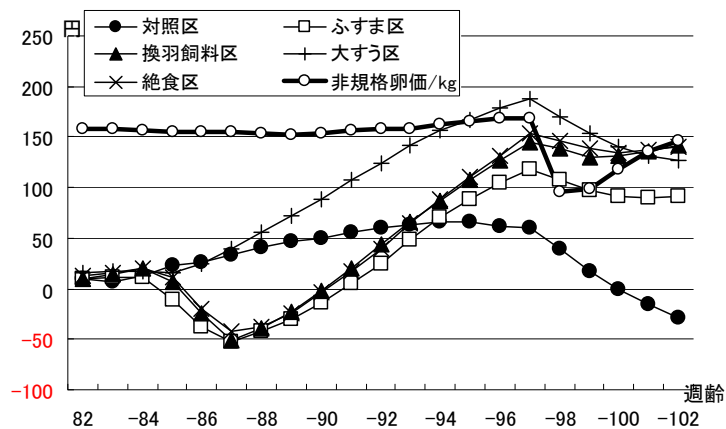


図1 累積粗収益の推移

[資料名] 平成19年度試験研究成績書(畜産環境・経営流通・企画調整)

[研究課題名] 養鶏経営におけるシミュレーション研究

[研究期間] 平成17~19年度

[研究者担当名] 引地宏二、平原敏史、倉田直亮